



自分用田んぼ、4年前から 大田原の阿久津さん

米農家に生まれた阿久津さんは小さい頃から農作業に興味があり、小学6年時に自宅近くの約1・5畝を

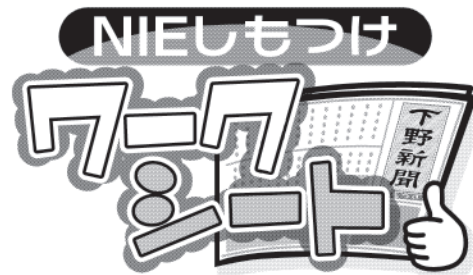
今年はおにぎり販売も

【大田原】県内一の米どころで、市場流通が少ない「ササシグレ」の自然栽培に取り組んでいる中学生がいる。親園中3年阿久津結花さん（15）だ。4年前に宇田川の自宅の田んぼで作り始め、昨年産米は自然食品を扱う店でも販売。このほど収穫した新米はおにぎりとしても販売予定で、阿久津さんは「大人になったらレストランを開き、自分が作った米を食べてもらいたい」と夢を膨らませている。（高山知昭）

中学生が米自然栽培

「ササシグレ」を選んだ。取り組んでいるのは無農薬、無肥料での自然栽培。苗作りからこだわり、手植えをした後は毎朝約1時間田んぼに入り、専用の農機具を使って除草した。稲は手刈りし、天日干しするためにはぎ掛けした。田植えと稲刈りなどには同級生らが楽しみながら協力。稲穂は今年もたわわに実り、阿久津さんは「苦労して育てて収穫した達成感がある」と笑顔だ。

ササシグレはアレルギー症状が出にくいなど体に優しいとされる。昨年産米の一部は「結」と名付け、自然食品を取り扱う店で販売。購入者の評判も上々で「知らない方に褒めてもらいうれしかった」。本年度の新米はおにぎりにしてキッチンカーなどで販売する計画も立てている。米の食味を競う国際大会で最高金賞の受賞歴がある祖父正徳さん（72）、父政英さん（43）の影響などを受け、「世界一おいしい米を栽培したい」と始めた米作り。4年間の取り組みを文章にまとめ、9月に宇都宮市で開かれた「県少年の主張発表県大会」では最優秀賞に輝いた。大好きな米作りを通して実感しているのは、人との輪が広がっていく喜びだ。阿久津さんは「来年は作付面積を増やし、米粉でお菓子作りにも挑戦したい。普段は農業を知らない人に農作業の楽しさも伝えられれば」と話している。



135

（2022年10月24日付・下野新聞19面）

小学校高学年向け 年 組

設 問

【1】親園中3年阿久津結花さんが自然栽培に取り組んだ品種はどれでしょう。正しいものを次から選んで書きましょう。

①ササニシキ ②コシヒカリ ③ササシグレ ④栃木の星 ⑤なすひかり

【2】【1】で選んだ品種の説明として正しいものを①～④の中からすべて選んで記号を書きましょう。

①アレルギー症状が出にくいなど体にやさしいとされる米
②栃木県独自のブランド米
③病気に強く、作りやすい米
④ササニシキの親に当たる米

【3】阿久津結花さんが米作りを始めた理由は何でしょうか。記事の中から、（ ）に合う言葉を書きぬきましょう。（ ）米を栽培したいから

【4】新聞記事からわかることをまとめた次の①～③の文を読み、正しいものには○、まちがっているものには×、記事からはわからないものには△を書きましょう。

①阿久津さんが栽培している「ササシグレ」は、おにぎりに向いている品種である。（ ）
②阿久津さんは、米粉でお菓子作りにも挑戦している。（ ）
③阿久津さんは、無農薬、無肥料での自然栽培に取り組んでいる。（ ）